

## 施策評価調書(3年度実績)

				施策コード	Ⅲ-4-(1)
政策体系	施策名	九州の東の玄関口としての拠点化	所管部局名	企画振興部、土木建築部	
	政策名	「まち・ひと・しごと」を支える交通ネットワークの充実	関係部局名	企画振興部、商工観光労働部、土木建築部	
				長期総合計画頁	149

### 【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③	④
取組項目	広域公共交通ネットワークの充実・強化	大分の強みである港湾や航路の充実を生かした拠点化	大分空港の利便性向上や利用促進	陸上公共交通の結節点の強化
取組No.	⑤	⑥	⑦	⑧
取組項目	県内を発着する物流ネットワークの充実	港の機能強化	物流拠点の集約化	新たな貨物需要の創出とモーダルシフトの推進

### 【Ⅱ. 目標指標】

指 標	関連する取組No.	基準値		3年度			6年度	目標達成度(%)						
		年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	25	50	75	100	125		
i フェリー・航空輸送人員(千人)	①②③	H30	3,721	3,800	1,851	48.7%	3,900							
ii 県内港湾の公共埠頭取扱貨物量(千フレート・トン)	⑤⑥⑧	H30	41,500	43,200	41,428	95.9%	45,000							

### 【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等		平均評価
i 著しく不十分	新型コロナウイルス感染症が長期化する中、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の影響を受け、広域移動手段であるフェリー及び航空の輸送人員は減少し、目標値を下回った。		達成 不十分
ii 概ね達成	新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、フェリーやRORO船による物流は回復基調にあり、目標値を概ね達成することができた。		

#### 【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・フェリー及び航空事業者による航路利用の促進に向けた取り組み支援に加え、国の臨時交付金を活用して公共交通活性化促進事業を実施した。
②	・別府港については、PFI事業の候補者となりうる5社に対し、別府港再編計画の周知を図った。
③	・大分空港への海上アクセスの実現に向けて、ホーバークラフトの造船事業者を決定し、建造に着手するとともに、発着地整備の設計業務を完了した。
④	・一日乗降客数が3,000人以上の駅のうち、R3年度は高城駅と別府大学駅のバリアフリー化が完了し、対象駅9駅全てが実施済となった。
⑤	・物流ネットワークの充実を図るため、国道217号平岩松崎バイパスなど、港湾へのアクセス道路の整備を推進した。
⑥	・増加する車両・貨物に対応するため、臼杵港の新フェリーターミナル等の整備を推進した。大分港大在西部地区ではRORO船ターミナル整備、別府港ではフェリーの大型化に対応した埠頭整備等を推進した。
⑦	・大分流通業務団地において、卸売業や製造業等の5社に対して分譲を行った結果、全体の分譲率は85%（対前年6.3%増）となった。
⑧	・ポートセールスにより、他港利用貨物の大分港（大在CT）への利用転換を促進した結果、R3年度は、外貨の実入りコンテナは、29,259TEUであった。 ・企業訪問や県内外セミナー開催により、R3年度は、RORO船利用促進助成申請件数が、21件と過去最多となったが、新型コロナウイルスの影響により最終的に利用件数は18件となった。

#### 【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名（3年度事業）	事務事業評価	
		成果指標の達成率（%）	掲載頁
①② ③④	九州の東の玄関口としての拠点化推進事業	48.7	362
③	国際航空路線誘致・拡充促進事業	—	362
⑤	（公）道路改良事業	—	366
⑤⑧	ポートセールス体制強化推進事業	74.7	363
	東九州海上物流拠点推進事業	98.7	363
⑥	港湾整備事業	—	363
⑦	流通拠点整備推進事業	104.1	226

#### 【VI. 施策に対する意見・提言】

○九州の東の玄関口としての拠点化戦略フォローアップ会議（R3.8）  
・貨物の取り扱いを増やすには新たな貨物を生み出す企業誘致も重要。

#### 【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州の東の玄関口としての拠点化戦略に基づき、人の流れ・物の流れの拠点化を進めるための事業を実施する。</li> <li>・大分港大在西部地区では、国直轄、県事業一体となってRORO船ターミナル整備を推進していく。</li> <li>・別府港では、別府港再編計画に基づき、岸壁や埠頭の整備を推進していく。</li> <li>・大分空港の国際線については、韓国線の早期再開と定着のための利用促進、中国・台湾その他アジア地域からの路線誘致に引き続き取り組む。空港への海上アクセスについては、ホーバークラフトによる運航の実現に向けた取り組みを進める。</li> <li>・フェリー及び航空事業者の特性を生かした企画商品の造成を支援し、利用者回復を図る。</li> <li>・ホーバークラフトによる大分空港海上アクセスのR5年度中の運航開始を目指し、船舶の調達と発着地整備の取り組みを着実に進める。</li> <li>・積極的に企業を訪問し九州の東の玄関口としての拠点化の進展に伴う大分流通業務団地の優位性をPRすることにより、早期完売を目指す。</li> </ul>